

榊原病院 Monthly

Vol.28 2018.June

独立行政法人国立病院機構 榊原病院
National Hospital Organization SAKAKIBARA Hospital

院長

村田 昌彦(むらた まさひこ)

1962年生まれ
1991年富山医科薬科大学医学部卒
1996年同医学部大学院卒
2014年国立病院機構北陸病院精神科部長
2015年国立病院機構榊原病院副院長を経て、2018年国立病院機構榊原病院長に就任。
日本司法精神医学会評議員。



診療科

- ・ 一般精神科
- ・ アルコール・薬物依存症
専門外来
- ・ こころのリスク外来

病床数 176床

- ・ 精神科病棟 158床
- ・ 医療観察法 18床
- ・ 認知症ユニット
- ・ アルコール・薬物依存症ユニット



電車・バス / 近鉄久居駅下車、三交バス
(榊原温泉口駅行)にて約30分。
榊原口バス停下車徒歩約10分。

自動車 / 久居インター (伊勢自動車道)
より西へ約20分

マイクロバス / 久居駅より直通バス(約25分)

病院理念

この病院で最も大切なひとは治療を受ける人である

《着任して、2ヶ月が過ぎました》

第二精神科医長 宮下 聡



平成30年4月に佐賀県の肥前精神医療センターから榊原病院へ異動となりました。前任地の病院も農地を見渡せる場所にありましたが、元々九州の自然豊かな島で生まれ育った私にとっては、ここ榊原病院も馴染みやすい環境です。病院周辺には、おそらくは裏山の花からと思われるなんともいい香りが日々漂い、それを楽しみながら出勤する時、異郷の地に居ることを実感しております。

前任地では児童思春期精神医学を専門とし日々臨床に打ち込んでおりました。その中で、毎年の自閉症キャンプへの参加、クロザピンの全国的にも早い段階での思春期症例への使用、こどものうつ病の厚生労働省班研究への参加などもしてきました。また前任地には40床の児童思春期病棟があり12年間子どもたちと関わってきました。児童精神科も成人精神科に劣らず守備範囲は多岐に渡り、これまで様々な子供たちに出会ってきましたが、その中でも(男性医師という単純な理由から)特に多動性障害、愛着障害、反抗挑戦性障害、素行障害などの行動障害や社会的問題行動が強い、つまり“やんちゃ”な子供達を多く受け持ってきました。過酷な環境で育ったケースが多く処遇も困難で治療は長期に渡ることも珍しくありません。それが児童思春期臨床の醍醐味であり喜びでもあります。さて、ここ榊原病院に赴任して最初に驚かされたのはスタッフの対応の速さでした。私が赴任するまで児童思春期症例の受け入れは少なかったにもかかわらず、何とかしようと各職種が協力して素早く動いていたのです。この多職種が敏感に柔軟に動く体制はこれまで榊原病院が作り上げ大切にしているものですが、子どもたちを育て成長させるためにも不可欠なものであり、赴任して最初の1週間で不安よりも心強さを強く感じました。そしてこの病院で2か月弱が過ぎ、急性期病棟にある児童思春期専用のさくらユニットの体制もほぼ整いました。これから外来や入院で様々な子どもたちと出会い、共に困難を乗り越えていくことを楽しみにしております。

トピックス

行事・
出来ごと

教育・
研修

- 平成30年5月22日、つばさ病棟無断退去発生時対応訓練を実施しました。
- 平成30年6月20日、第2回症例検討会(YOU-C-C)
- 平成30年6月20日 アルコール関連地域職員研修会
- 平成30年6月28日、院内消防訓練
- 平成30年度「包括的暴力防止プログラム(CVPPP)指導者養成研修」
開催予定 ・平成30年7月3日(火)～6日(金)
- 平成30年度「包括的暴力防止プログラム(CVPPP)フォローアップ研修」
・平成30年9月13日(木)～14日(金)

榊原病院ホームページ
QRコード



地域医療連携室だより

〈医療福祉相談のご案内〉

経済的な心配、福祉サービスの利用、退院後の生活など病気によって生じた生活上の困り事について、精神保健福祉士がご相談に応じます。相談をご希望の方は、主治医、看護師及び医事受付まで申し出てください。

訪問看護

当院の訪問看護は、退院後地域で安定した生活が送れることを目標といたしております。退院後の課題といたしましては、大切な薬を中断してしまうこと・生活リズムを守れず昼夜が逆転してしまうことやお金の管理が上手くできずに使いすぎて生活に困る等の病状がみられます。

これらの症状の悪化に伴い再入院する方が多くなっております。患者様と家族の困ったことについて、地域の方々の支援を受けながら一緒に考え、安定した生活ができることを目標といたしております。

治療抵抗性精神疾患への医療

〈クロザピンの治療状況〉

治療抵抗性統合失調症に対して、平成26年10月に1例目の投与を開始し、平成30年5月までに全症例は63例となりました。新規導入は4月2例、5月3例でした。順次投与を開始する予定です。クロザピン通院専門外来も開設しております。



認知症医療・アルコール・薬物依存医療・こころのリスク外来

〈認知症医療〉

認知症の患者様は高齢であることから、様々な合併症をお持ちの方が多くおられます。また、アルコール問題の後に、認知機能が低下した方、さらに身体疾患に併発した認知機能の障害のある方は、若年の方にも見られます。したがって、現在は80歳以上の超高齢の方と50～60代の若年の方にも見られます。身体的な問題については、三重中央医療センターと連携を図りながら、幻覚や妄想、不穏など認知症の周辺症状（BPSD）に対応しています。

一般病院や介護施設において、BPSDの問題でお困りの場合はご相談ください。

〈アルコール・薬物依存医療〉

適正な飲酒量とはどの程度かご存知でしょうか？「節度ある適度な飲酒」とは、純アルコールで1日約20グラム程度、つまり日本酒なら1日1合、ビールなら大瓶1本だけなのです。日本酒3合では健康に悪影響の出る「多量飲酒」（健康日本21）と言われております。もし減らすことが難しいという方がおられましたら、外来・入院での治療プログラムにてご協力させていただきます。

お一人で、ご家族だけで悩み解決しようとするのではなく、まず専門スタッフへお気軽にご相談下さい。ご自分だけで抱えずに相談することが、病気を回復する第1歩です。

〈こころのリスク外来〉

思春期・青年期はこころのリスク状態が高まり、さまざまなこころの病気を発症しやすいと言われております。当外来はこころのリスク状態を早期に発見・治療していくための専門外来ですので、お気軽にご相談ください。



デイ・ケア案内

デイケアは毎週、木曜日を除く週4日、北病棟3階作業療法室奥で実施しています。実施時間は9時30分から15時30分です。榊原地区の自然を楽しむ町内散歩や、スポーツ、音楽、アートなど様々な楽しみごとを行います。昼食づくりやお菓子作り、喫茶の会など、実用的な体験もできます。参加者で協力しあって、コミュニケーションの練習も、がんばっています。

参加希望の方は主治医またはデイケア担当者にご連絡下さい。デイケアのパンフレットを外来待合室に置いてあります。また、病院ホームページに月間プログラムもあります。お気軽にお問い合わせ下さい。



好評の手打ちうどん作り
丁寧に切って仕上げます



上々の仕上がりです
おいしくいただきました

栄養コラム



《野菜をとろう！》

野菜の摂取は1日350g以上が目標として掲げられています。しかし、平成28年度の国民栄養調査において、1日当たりの野菜摂取量の全国平均は、男性で284g、女性で270gと下回っていました。そんな中、唯一クリアしたのが、野菜摂取量が一番多い長野県で男性で352gでした。ちなみに女性の1位も長野県です。我が三重県はといいますが、男性が269g、女性が240gで、男女とも全国で下から4番目でした。皆さん、野菜の摂取を心がけましょう！

健康睡眠12ヶ条

第二条 適度な運動、しっかり朝食、ねむりとめざまめのメリハリを。

・定期的な運動や規則正しい食生活は、よい睡眠をもたらす。

運動は日中に。寝る前には激しい運動はやめましょう。夜食もよくないですよ！

・朝食は、からだどころのめざまめに重要！睡眠薬代わりの寝酒は睡眠を浅く、悪くします！

・寝る前の喫煙やカフェイン（コーヒー、紅茶、緑茶）を避けましょう！

